

授業科目 保健医療ソーシャルワーク論

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	社会
河野 聖夫		開講時期	前期	必修・選択	選択
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：GI0】 生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題を捉え、「わずらい」や「生活障害」への理解を得る。 保健医療福祉の現場から見える生活問題の特徴を考察し、 クライアントの自立や社会復帰の支援を目指した保健医療ソーシャルワークの理念や意義、理論と方法を学ぶ。 保健医療福祉の諸制度にも触れながら、専門職の連携、チームワークの方法と実際を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1) 受療者・患者・家族の置かれる社会的現状を知り、様々な生じる生活問題の諸相を考える。 2) 保健医療ソーシャルワークの基礎知識・理論を理解する。 3) 保健医療分野におけるソーシャルワークの実践（業務や展開過程、他職種との連携など）について理解する。 4) 医療ソーシャルワーカーの実践事例を通じて、社会的存在意義や役割、連携の方法について考察する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション				
2	保健医療福祉の現状と社会の変化に伴う歴史的な経過				参考図書紹介、資料配布
3	生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題				資料配布 時事
4	保健医療分野におけるソーシャルワークの役割と意義				倫理綱領 業務指針
5	保健医療ソーシャルワークの価値 ～保健医療ソーシャルワークとは何か				教科書第1章
6	保健医療ソーシャルワークの歴史				教科書第2章
7	医療ソーシャルワーカーの役割				教科書第3章
8	保健医療の提供システムと医療保障制度の体系				参考図書紹介 資料配布
9	保健医療機関の組織と専門職				教科書第4章
10	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務				実践事例の考察
11	保健医療ソーシャルワークの実践過程				教科書第6章・第8章
12	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの意義				教科書第5章
13	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの視点と方法				実践事例の考察
14	保健医療の各種専門分野におけるソーシャルワークの現状				参考図書紹介 時事
15	まとめ				考察課題への取り組み
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		新訂 保健医療ソーシャルワーク原論		(社) 日本医療社会事業協会編	相川書房 2006・2,200円
参考書		授業内で紹介する。			
その他の資料		必要に応じてプリントを配布する。			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席状況20 授業内小レポート30 定期試験50		病院や介護老人保健施設での実習を予定する学生は原則として履修すること			